



9井事建第2174号
平成19年4月27日

国土交通省道路局長 様

井手町長 汐見 明 男



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について (回答)

平成19年4月2日付け、国道企第114号で依頼のありました上記の件について、別紙のとおり回答します。

中期的な計画の作成にあたっての
井手町長意見

平成 19 年 4 月

京都府井手町

井手町では、第3次井手町総合計画に基づきまちづくりを積極的に進めています。基本構想では「安全性・利便性・快適性が高く、いきいきと暮らせるまちづくり」を目指し道路関係で町内外の道路交通網の整備・改良を進めるとともに、府道上狛城陽線多賀バイパスの早期完成、地域高規格道路宇治木津線の早期実現など交通の利便性の向上などに取り組むとしています。

また、基本計画では「ひと・まち・暮らしを結ぶ道づくりの推進」を施策として、「道路交通網の整備」を方針に掲げ、井手町の骨格として重要な役割を担う幹線道路については、交通の円滑化、経済活動の活力向上のために、南北軸、東西軸となる体系的な道路整備を図ります。また、日常生活に直結する生活道路については車を優先した道路整備から、安全に楽しく歩ける道づくりへと視点を変え、人にやさしい道路環境を目指すとしています。

・重点化を進める上で特に優先度の高い政策

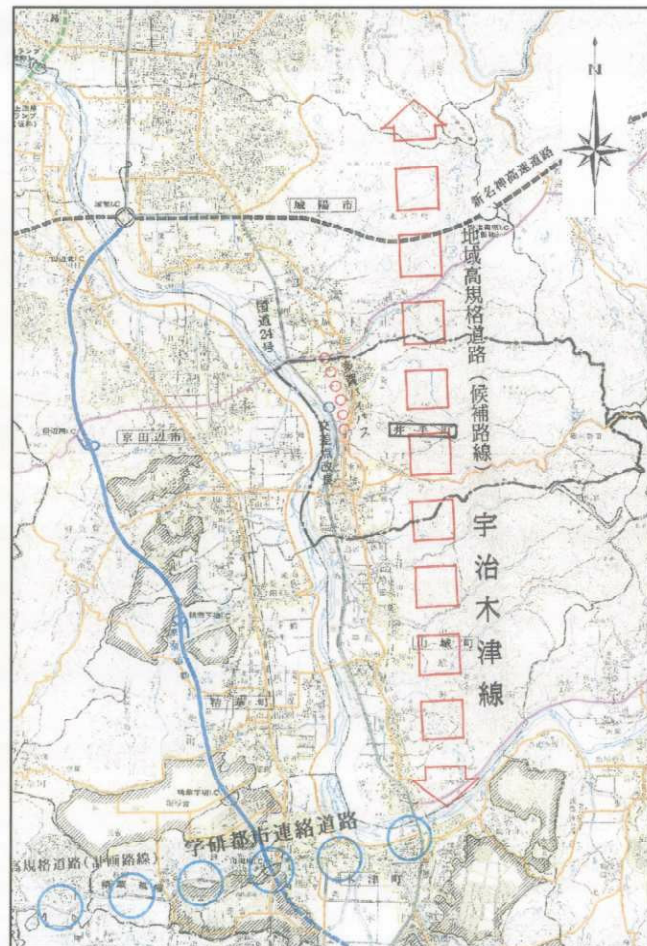
まちづくりを支える道路整備

- ・ 産業活動、日常生活を支える国道など幹線道路網の整備。
- ・ バイパス、交差点改良など渋滞対策。

現況と課題

本町の主要幹線道路の南北軸である国道24号は慢性的な渋滞を引き起こしており、その抜け道とされている府道上狛城陽線は、幅員が狭小でかつ歩道もないことから異常な渋滞が発生している。

この道路は小学校の通学路にも指定されており、渋滞時には小学生や地域住民が常に危険な状態にさらされている。



このことから、既に事業実施している府道上狛城陽線多賀バイパス、計画中の国道24号と多賀バイパスを接続する交差点改良の早期完成を望んでいる。

また、多賀バイパスからの南進については、通行者の安全確保とまちづくりを推進する上で必ず必要と考えており、早期の事業化を望んでいる。

地域に活力を産み出す道路整備

- ・ 新名神高速道路など国土軸の整備。
- ・ 地域高規格道路等の道路ネットワーク整備。

現況と課題

木津川右岸地域の状況は、地域整備は着々と進展しているものの道路整備はまだまだ不十分であると思っている。

そして、京都府南部の主要幹線道路である国道24号は、慢性的な交通渋滞等の問題が発生している現状から、木津川左岸地域の関西文化学術研究都市とも有機的に連携する木津川右岸南北道路が是非とも必要であり、地域高規格道路「候補路線」である宇治木津線の新設を望んでいる。

また既存の道路整備として、主要幹線道路である国道24号を車も人も安全に通行できるための全線歩道設置を望んでいる。

生活に密着した道路整備

- ・ 歩行者や住民が行きかう駅周辺などにおける歩道整備やバリアフリー化。

現況と課題

本町北側の玄関口である山城多賀駅周辺については、歩道整備を含め国庫補助事業として改良工事を実施中であり早期の完成が必要と考えている。

JR玉水駅や井手小学校にアクセスしている府道上狛城陽線は、通勤通学者をはじめ児童生徒の通学路となっているが、幅員が狭小でかつ歩道のない箇所が存在しており、危険度の高い場所となっている。

住民の安全確保と利便性向上のため、JR 玉水駅から井手小学校間の車道拡幅と歩道設置を早期に完成していただくよう望んでいる。

自然災害に強い道路網の整備

- ・ 緊急輸送道路の信頼性、安全性の向上。
- ・ 山間部等で孤立集落の発生を防ぐための道路整備。

現況と課題

本町の東部山間部に位置する有王地区は、自然を活かし都市住民との交流の拠点づくりのため、多種多様な事業に取り組んでいる地域である。

しかし、本地区へ唯一のアクセス道路である府道東井手線は幅員が狭く接触事故も発生している。

本路線全線の整備改良を望んでいる。

・重点化を進めるために必要な措置

- ・ 自動車利用者が道路整備の費用を負担するとした道路特定財源制度は公平性・効率性・安定性の観点からも妥当であり堅持すべき。
- ・ 道路整備と計画的修繕・更新を地方が主体的に行なえるよう、地方道路整備臨時交付金の拡充。

・効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

- ・ 事業の効率化は、着手後いかに早く投資効果を上げるかによる。
- ・ 競争性、透明性、公平性が発揮できる入札契約方式の導入。
- ・ 整備促進のためには住民の理解が必要不可欠であり、事業計画への住民参加や行政の説明責任を果たし、事業期間短縮に向けた積極的な取り組み。

・その他

- ・ 完成した道路の速やかな効果発現等のためのPR活動。
- ・ 道路管理者と交通管理者との連携強化のため、情報の共有化と速やかな調整。
- ・ 管理連携強化のため、道路管理者が異なる複数の道路で一つの管理者で実施する方が合理的な場合における柔軟な対応の確立。